

地域に宇和島市の専門機関について発信する

1年1組 川崎 詩歩 1年1組 徳岡奈菜子
1年3組 金岡 紫真 1年3組 川崎 美歩
1年3組 清水 麗未 1年3組 東海林桃花
指導者 教諭 山下 孝文

1 課題設定の理由

現在、宇和島市の高齢化率は30%を超えている。今後2人に1人が高齢者と予測される今、それが宇和島市の各専門医療機関にどう影響しているのか気になった。また、若年者から高齢者まで、地域の人に自分の病状に応じた適切な専門機関を選択してもらいたいと思いこの課題を設定した。

2 仮説

宇和島市の年齢層に応じた病気がみられるのではないかと。

3 研究の方法

(1) 宇和島市の年齢層の状況

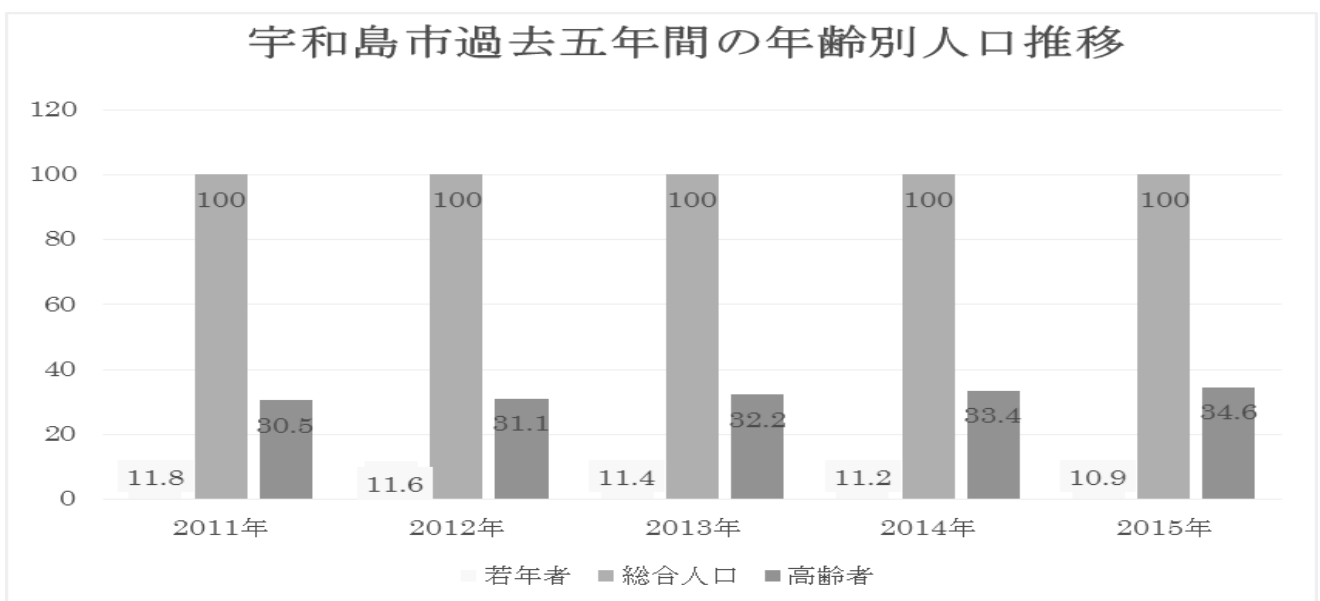
(2) 病院訪問

- ① 眼科 松林眼科・市立宇和島病院
- ② 小児科 市立宇和島病院
- ③ 脳神経 徳洲会・市立宇和島病院

4 結果と考察

(1) 宇和島市の高齢化の状況

宇和島市の過去五年間で、総人口は減少していた。そのうち、高齢者の割合が年々増加し、15歳未満の若年者の割合は減少しつつあった。



(2) 病院訪問

① 眼科

- ・眼科を受診する患者さんのほとんどが高齢者であることが分かった。その多くは白内障であった。これは高齢化が影響していると考えられる。
- ・総合病院では、多数の科が一つの病院に集まっているため、糖尿病の合併症状などの対応がしやすく、個人病院では、患者の病気の対応における決断が早いということも分かった。私たちはこれを理解した上で適切な病院を受診する必要がある。

② 小児科

- ・調べた結果、少子高齢化に関係する結果はみられなかった。
- ・感染症のクループが多くみられることが分かった。市内の幼稚園や保育園などでの集団感染に気を付ける必要がある。
- ・総合病院では内科などの他の科と連携して対応できることがわかった。私たちは子供の症状の軽重を理解して受診するべきである。

③ 脳神経外科

- ・受診する患者さんは高齢者が多いことが分かった。これも高齢化が影響していると考えられる。
- ・総合病院ではすべての病気に対して、再発までも防ぎ術後のケアまで徹底しているため、手術後患者さんは自力で生活することができる。少子高齢化が進み、介護が追い付かない現在にはかかせない医療体制である。例として、増加傾向のくも膜下出血は症状に応じてクリッピング手術とコイル塞栓術などを使い分け、患者さんの術後の体の状態を考慮していた。

5 まとめと今後の課題

宇和島市では、高齢化に応じた病気の傾向がみられた。また若年層に応じた病気の傾向は見られなかった。総合病院では各科と連携し、診断を行ったり、リハビリステーションなどを利用し、治療できることが分かった。一方、個人病院では、決断が早いなどの長所がみられた。また各専門機関において現在の問題とされている高齢化に対して患者さんの術後を考慮した必要不可欠な対応をしていた。

私たちはこれらの結果を理解したうえで、各個人に応じた病院を利用する必要がある。

6 参考文献

- ・宇和島市ホームページ 年齢別人口

<http://www.city.uwajima.ehime.jp/www/contents/1128327123734/index.html>